

土木工事の名脇役 (レンタル会社の配送センター)

ドボクの面白さを、古いもの、新しいもの、消えゆくもの、身近なものなどを通じて広くお伝えします。ウェブサイトとの連動企画です！

【絵】モリナガ・ヨウ / 【文】溝淵 利明



「土木まくのうち」の企画は、土木工事だけでなく、土木にまつわるいろいろなものを取り上げていこうという事で立ち上げたものです。今回は、まさに土木工事での名脇役という小道具類に目を向けたもので、これら名脇役たちを扱っているレンタル会社である、(株)アクティオの東京DLセンターにお邪魔しました。

土木工事では、大型の建機だけでなく、それこそカラーコーンから工事中の標識までいろいろなものが必要です。一方、これらの工事に使う機器類などは常時必要というわけではないので、使用しないときはどこかに保管しておくかねばなりません。また、ただ保管しているだけでは次に使うとき使えないなどの不具合が生じないようにメンテナンスしておく必要があります。工事に使う機器類をすべて建設会社で保有して維持管理していくことはほとんど不可能に近いといえます。さらに、工事中に急に必要になったとき機器類が手元になんていうことも、結構あります。そんなユーザーの要望に応えてくれるのが、レンタル会社です。今回取材したDLセンターは、24時間365日対応可能な物流センターで、東京23区内ならば30分以内に工事に必要なものを届けることを目指しています。

ここでは、ただ品物を届けるだけでなく、返却された品物を分解・清掃・整備・組み立てまでできる設備を有しています。また、出荷待ちの資機材はラックに入れられ、立体駐車場のよう設備内で保管されていて、出庫の際は全自動で取り出されるようになっていっています。

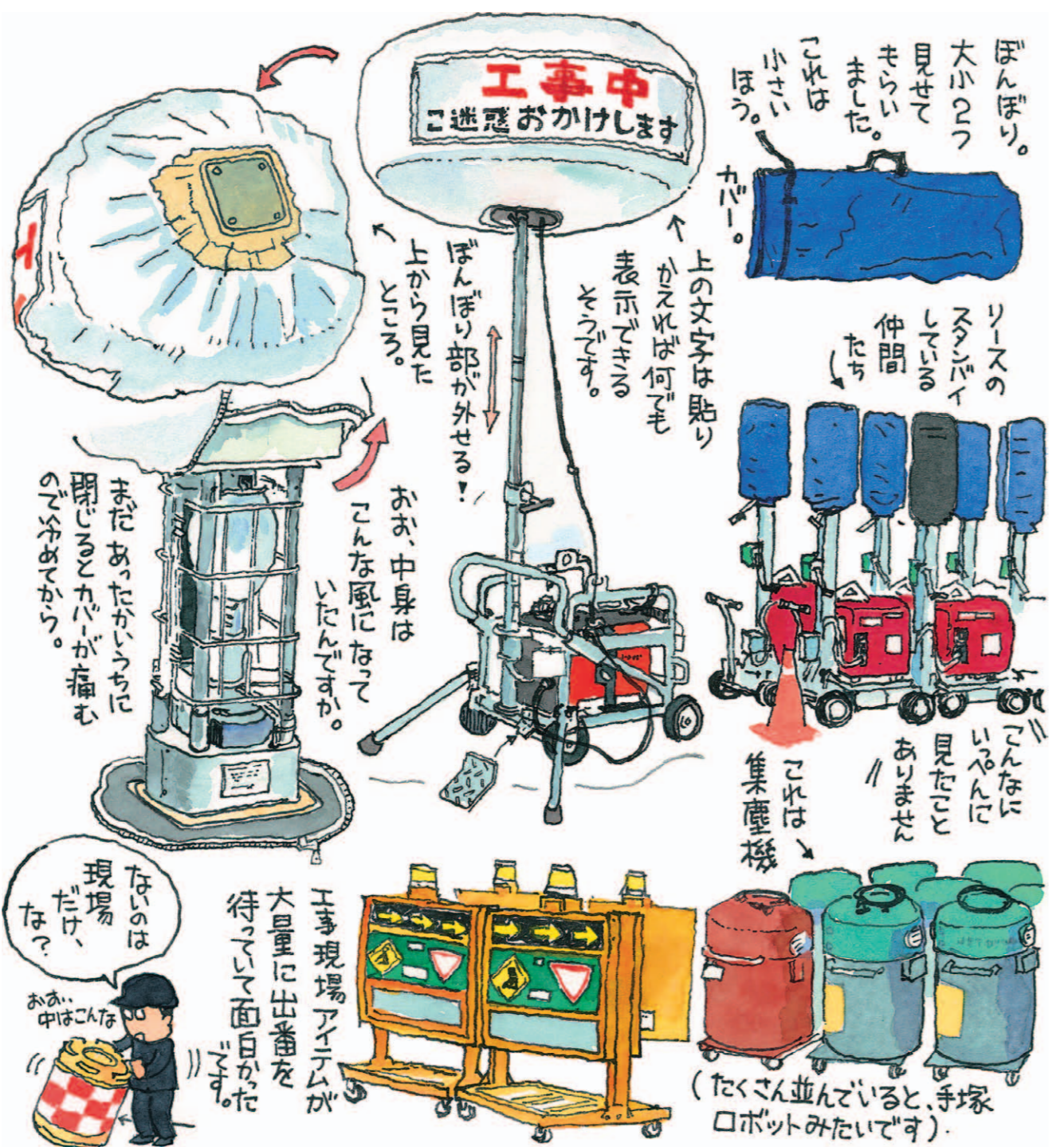
取材 「こぼれ話」



以前、学会誌のモリナガさんとの連載記事で、確か札幌での取材のときにポンボリ照明(正式にはバルーン照明というそうで、10〜15年前からある商品だそうです)を二人初めて見て、いたく感動したことがありました。今回、(株)アクティオの東京DLセンターで、バルーン照明を間近に見てその感動がよみがえってきました。また、現場ではバルーン照明に触れることができませんが、今回は間近に見るだけでなく、触れることもできました。普段は、折りたたみ傘のように閉じていますが、使うときにはファンで空気を入れて膨らみますのわかりました。街中の工事などでは、周辺住民などに迷惑が掛からないように、上半分を目隠ししたバルーンもあるそうです。

もう一つ、前からモリナガさんが現場の取材でいたく感激していたのが、長靴洗い機です。今回これも見せてもらうことができました。モリナガさんは長靴洗い機の背面がどうなっているのか気になっていたので、今回は全周囲見ることができました。このほかにも何回も先工事中という看板もあり、レンタル会社の流通センターはまさに「現場にある物は何でもそろっている。ただし、ここにはないのは現場だけ」といった場所でした。

(溝淵利明)



モリナガ・ヨウ 1966年生まれ。現場見学だけは経験値の高い文系イラストレーター。『築地市場 絵でみる魚市場の一日』で第63回産経児童出版文化賞受賞。みぞぶち・としあき 法政大学デザイン工学部教授、専門はコンクリート材料、維持管理(非破壊検査)等、モットーは「コンクリートの一生を考える」。